

ジム、ミッシェル、そして現在ホームステイの中のランディの国であり、オーストラリアはデイビッドの国である。香港はジョセフ・ス、そしてフィリピンはダンテの国。

毎年、子供達のホームステイ先も含めて、世界中に親戚が増えていく。彼らは

私の家族にとって心の財産である。

さて私がこれからやってみようと思うことは、横浜に住んでいるアジアからの留学生によくホストファミリーを紹介することである。

我々とはかく英語圏の人にだけ目を向けて、世界中に親戚が増えていく。彼らは

なのはアジアの国々から来た人である。

多くの学生が寮や下宿に住み日本人との交流が少なく聞くと、志を立てて日本にきた若者達を家庭に暖かく迎えてあげたらどんなに喜ぶだろうか。

横浜こそこんな国際交流にふさわしい

街である。

あなたもホストファミリーになってみませんか。

楽しいですよ！
本当ですよ。

△主婦▽

③ 横浜J.C.の国際交流活動

宝田良一

一 はじめに

昭和二十六年に創立以来、横浜青年会議所（横浜J.C.）は横浜の明るい豊かな街づくりにボランティア活動を注いできた。戦災敗戦に引続く市中枢部の接收、この中において街の復興に向かって横浜J.C.は産声を上げた。以来、横浜市の発

展に様々な功績を残してきていると思う。

J.C.の目標は「社会と人間の開発」である、日本の独立と民主主義を守り、自由経済体制の確立によって豊かな社会を創りだすため、「品格ある青年」が市民運動の先頭にたつて進む団体、それが青年会議所です。個人の修練、社会への奉

仕、世界との友情がJ.C.の三信条で、我々のJ.C.運動の基盤になっている。これらのことが横浜J.C.の活動の基本であり、国際交流活動も、J.C.の目的を果たすための手段の一つであります。

一人の市民として、幸せな生活を望むとき、その社会環境を作り出すために奉仕をする。J.C.は一市民であるのと同時

に、夫（妻）の立場での役割、さらに父親（母親）の立場での役割も果たさなければならぬ。

戦後四一年の歳月が流れ、時代の潮流は、国内問題と国際問題との区別をもちや許さなくなつた。政治的側面や経済的側面にとどまらず、私たち日本人、そして横浜に生活し働く私たち一人ひとりに

一 はじめに

二 国際交流活動

三 二十一世紀の国際時代を展望して

まで、国際社会の問題が深く連動してきている。国内政策は国際政策の連動化の時代認識、すなわち、地球儀を見つめる視点を持ち、地球儀から考える発想が重要となった。私たちの生活する地域の経済的自立、個性化、アイデンティティの確立こそ、低成長ではあるが、確実に成熟化へと向かいつつある社会へ対応する鍵となろう。横浜における経済活動は、大きく貿易問題や為替相場問題に影響を受け、都市の再設計においても、国際社会の中で、過去のどの時代にもまして、この横浜がいかにどう貢献できるのかという視点をもって考えていかねばならない。地球の繁栄と日本の繁栄、そして、平和のために、この横浜がどんな貢献ができるかという発想が、「横浜のサバイバル」の鍵となろう。

二——国際交流活動

三十六年の歴史の中で、始めの一〇年間で横浜J.C.が行ってきた国際的事業としては、国際親善児童画展、創立一〇周年を記念して行われたサンディエゴ市との姉妹J.C.締結などがある。このころの横浜J.C.には数人の外資系の会社の役員がメンバーとして海外交流を深めていた。国際児童画の交換事業は一九五四年に第一回の児童画募集を行った。日本と

フィリピンとの民間親善に寄与するために役立った。その後も小学生を対象にした国際親善児童画の募集は続けられたが、一九六一年にサンディエゴJ.C.との姉妹J.C.を結んで以来、サンディエゴとの親善児童画交換に切り替わり、以後一〇年間にわたって続けられた。

その後の一〇年間で基降J.C.との姉妹J.C.締結、二〇周年を記念したバンクバーJ.C.との姉妹J.C.締結であった。さらに昭和四十六年から三〇周年を祝うまでの一〇年間で、地元外国人の子女との交流で、国際こども音楽祭が毎年の様に開催されていた。日本の子供達に外国の子供達と接触する機会を与えて、子供の頃から世界を知り交流の輪を拡げることが、将来の心の成長過程で良い影響を必ずや与えるものだという考えから、一九七二年から一〇年間毎年行われた。

そして二五周年を祝い、香港ジュエシーエット(女性のメンバー)とフィリピンのボンパトJ.C.オプ・パラニアケとの姉妹J.C.が締結され、基隆J.C.を含み、毎年相互に訪問しあつた。一九七七年には横浜青年会議所創立二〇周年を記念して設立された教育振興基金の利子運用事業として、教育者の海外派遣が横浜市教育委員会との協力で行われ、その年五人の教員がヨーロッパ五カ国へ送られ

た。これは一九七八年、一九七九年と続いて行われた。

一九七八年から五年間、サンディエゴ市の「プロジェクト・コンサーン・インコーポレーテッド」に支援の為の募金運動が行われた。援助先については一メンバーをサンディエゴの本部へ、そしてメキシコ・ティワナ市の病院へ送り、インドネシアのメナド市へは三人を派遣、現地調査を行った。運動は「人類のために歩こう」運動と名付けられ、貧困と病気に苦しむ人々へ援助が行われた。翌年には「横浜チャリティー・ウォーク/79」のテーマのもとで、参加者が地域の会社、団体、個人と契約し、一人が1km歩くごとに一定の金額を寄付していただいた。同じ年、田野井一雄氏(現市会議員)が理事長の年に初めて国際室が設けられ、国際交流も人材育成の一つとして行われ始めた。中区山手町にあるFSI

の人達と交流を始め、今なお月一回交流をしている。FSI(FOREIGN SERVICE INSTITUTE)は米国外務省日本語研修所のことで、米国外務省付属外務研修所(バージニア州アーリントン)の日本分校として、一九五二年七月に開校し、米国外交官や政府からの委託研修生等を対象に日本語並びに日本事情に関する教育を行っている。FSIの研修生は国際人としても一

流の人々であり、横浜J.C.が交流を深めていくには、理想的なパートナーである。

翌年、三〇周年記念式典では、元米国国防長官のジェームス・R・シュレシンジャー氏を招聘し、「日本の安全と防衛」について基調講演をいただいた。このことから国際活動に横浜J.C.は力を入れ始め、姉妹J.C.の活動として、香港との障害者の交流事業を実施。また、「横浜どんたく」を通じ、国際港都横浜のイメージアップを図り国際化時代に対応した政策作りを励んできた。

現在、横浜J.C.の国際活動は次の様に行われている。我々の住むアメニティー社会の形成にむけて①組織としてどの様なプログラムを展開していくか②メンバー個人が日本青年会議所の中、またはアジアさらには世界J.C.の中でどのような活躍をし、横浜へフィードバックをするか③横浜J.C.メンバーがJ.C.以外の他団体の中でなげ出来るかを整理し、行動し始めている。

国際文化都市を形成するためM21事業が進められている。国際会議所、国際機関、海外からの企業誘致施策等を進めるためのソフト作り。どのような環境を整備することがM21事業画を早期に軌道に乗せることが出来るか。その中にあるJ.C.として何が出来るか。まず国際

都市というのはそこに海外の情報がなくてはならない。その情報とは公的機関によって作られるものと、国籍の違う多くの人々の生活から出て来るものと、企業によって作り出され情報がある。国際会議場の誘致は器としては最適である。しかしその器を使う必然性を作り上げなければならぬ。それにソフトの開発に力を入れなければならない。華僑の人々が住む中華街の存在は、外国を身近に感じさせる。更に開港と同時に外国人が居住していたことは、外国人の存在に対してあまり違和感を感じさせない。日本がアジアの経済との関わり合いを増すにつれて、横浜の役割は多大になるはずである。食糧、住居、教育機関、医療施設、語学は、外国人が住むにあたって、かかせない条件である。これらの条件の中で、現在横浜JICは国際大学を創る調査研究を進めている。また今年度はアメリカにおける港町の再開発の事例およびこれからの情報化都市にかかせないテレビ構想の調査に海外都市調査団を派遣した。今度の七月に行われる横浜経済人会議の中で、これらの調査に基づく政策提言がなされることであろう。

二十一世紀の社会づくりを目標とする横浜JICは、国際性と経済人としての視点を持って、社会の基盤にかかわる問題に取りくんである。

一九八九年JICアジア太平洋会議を横浜で開催しよう、その立候補の準備を現在進めている。昨年、日本におけるJICアジア太平洋会議立候補権を獲得し、来年五月にシンガポールで正式に立候補をする運びとなっている。アジア太平洋諸国二〇カ国から数千のJICメンバーが横浜を訪れ、日本JICメンバーを含め八、〇〇〇人から一〇、〇〇〇人の会議が横浜で開催される。出来ればその年の国際会議によってアジア諸国の発展のための運動が生まれるよう横浜JICの努力を注ぎ込んで行きたい。

国際会議誘致へ向けてキャンペーンのため横浜JICのメンバーが数一〇人単位で各国国際会議へ参加して来た。単年度制の人事交代を特質としているJICは、毎年新たに国際交流をするメンバーが生まれている。今年五月には韓国のプサン市で行われるJICアジア・太平洋会議へ、横浜JICから一〇〇人のメンバーを参加させることになっている。この一〇〇人が現地で横浜の都市のPRに務め、一九八九年の横浜会議への参加者を募る活動をする。横浜会議を成功させる為には、いかに多くの外国人メンバーが参加

するにかかっている。秋には、アジア各国において全国大会が、開催されるが、この時が横浜会議を売り込むには絶好の機会である。横浜JICから、数人ずつのキャラバン隊を組み各国における横浜会議の動員をはかっていく。更にキャンペーンは続き、今年十一月に名古屋で開催されるJCI世界会議に横浜から二〇〇人が参加し、国際会議の運営についての調査・研究と世界各国からの参加者との交流を図っていく。来年の五月のシンガポール会議へ二〇〇人の参加を募り、一九八九年度開催地決定へ向け邁進している。

細郷市長には是非とも同行をお願いし、横浜あげての誘致活動としてキャンペーンを行いたい。更には十一月の阿姆斯特ダム世界会議へ五〇人、八八年の香港会議へ二〇〇人、建国二百年を記念して行われるJCIインドネシア世界会議へ五〇人、延べ約一、〇〇〇人のメンバーが横浜を海外においてPRする。このことは単にJICの自己満足の為の会議開催ではなく、横浜国際文化都市形成へ向けてのワンステップである。

七五カ国に及ぶ国々でのニュースあるいはTV中継による紹介は、日本への進出を考えている多くの国々の企業への横浜のPRとして最適である。

横浜港から外国へ向けて輸出されるものの中には車が最も多く、更には横浜の市民に最も関わりのある産業としても車があげられる。その車の技術を競い最新の技術開発に貢献しているのがF1グランプリである。是非とも横浜での開催を実現し日本も車の産業に貢献している姿勢を示していきたい。F1グランプリにはレース関係者だけで六〇〇人から成る人たちが一緒に入国し、数百人の同行記者および関係者をいれと一〇〇〇人にもなる。昨年十月に行われたオーストラリアのアデレード市におけるF1グランプリシテイレースにはヨーロッパから四〇〇人以上の人たちが観に来たといわれている。横浜で実現すればアジアで唯一のグランプリとなり、立地条件からみて横浜へ観に来る外人観光客の数はかなりにのぼるであろう。

JICアジア太平洋会議およびF1グランプリの開催は横浜を外国に紹介するのみならず、観光都市、また、国際文化経済都市の形成へと大きく貢献することだろう。

三——二十一世紀の国際時代を

展望して

過去一〇年以上、横浜JICのメンバーが日本JICおよびJCIの中で活躍をし

過去一〇年以上、横浜JICのメンバーが日本JICおよびJCIの中で活躍をし

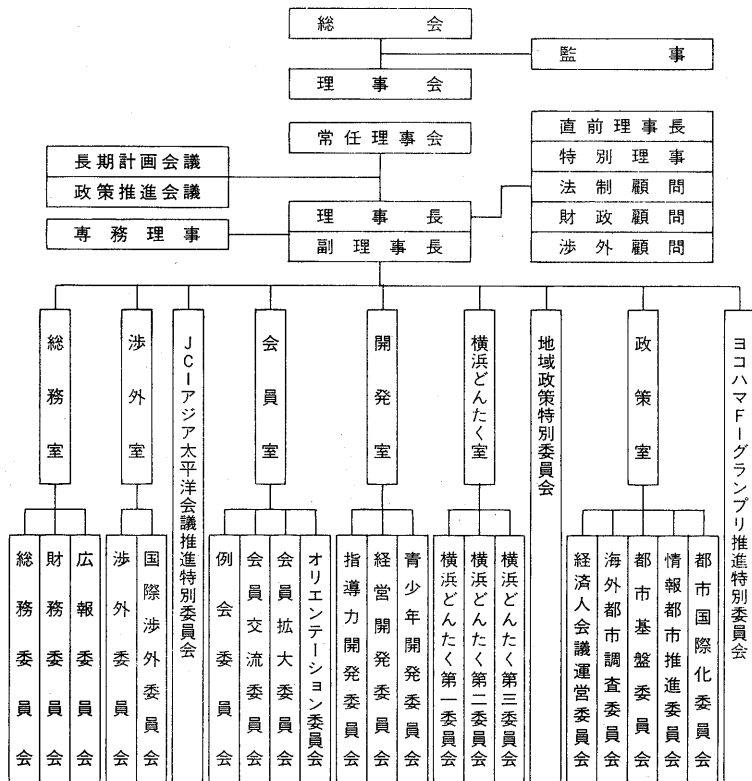
てきている。この活躍とはそのメンバーが作り上げた海外における人脈である。日本JICが毎年派遣するアジア太平洋開発ミッションで、横浜JICメンバーが中心的役割を果たして来ている。同時に「青年の船」事業においても今年も浅利君（横浜JIC直前理事長）が団長を務め横浜から四人のメンバーが委員としてアジア各国JICとのパイプ役に務めている。更にJICの国際会議（アジア太平洋会議および世界会議）では過去一二年間、横浜JICのメンバーがロビストを務め、様々な国際問題の情報分析を行ってきた。彼等の情報網および人脈は横浜の財産であろう。

今年度の横浜JICの組織は国際関係だけで二三委員会のうち五委員会が直接関わりを持ち、他の委員会においても間接的に何らかの形で国際問題を取り入れている。

国際渉外委員会は、姉妹JIC・在日外国人および米国国務省日本語研修所（FSI）との交流、JCI各種大会への参加、在日外国人青年会議所諸問題に関する検討、香港その他におけるアジアコンファレンス誘致PRを実施している。

JCIAアジア太平洋会議推進特別委員

表一1 1986年度横浜JIC組織図



会は、国の内外への同会議誘致活動、各種大会のPR、アジアコンファレンス横浜開催の検討などを行う。

海外都市調査委員会では、海外都市視

察企画・運営、その調査時の報告書スライド作成など、横浜経済人会議の分科会の企画・運営を事業とする。

都市国際化委員会は国際イベント開催

のための都市機能調査・研究。都市の国際化に向けての環境作りの調査・研究「ベンチャー大学」（仮称）構想。ヨコハマF1グランプリ推進特別委員会を設け「ヨコハマF1グランプリ協議会」（仮称）の設立、その誘致活動も行い、市民意識高揚のための活動を行っている。

横浜どんたく室・横浜どんたく第二委員会では「国際平和年」記念協力事業を、オリエンテーション委員会では、外人墓地を愛する会の支援を行っている。毎年種々の委員会へ配属され、様々な活動をする中で国際活動に携わるメンバーも増えてきて、外国語が得意だからとか、自分の企業がたまたま貿易業務に携っているからという理由で国際活動を行うというのではなく、配属されたJICの委員会の事業を全うすることにより国際活動を経験する者が多い。

いろいろな経験をすることにより、無理なく自然に国際感覚が培われつつある横浜JICのメンバーが、二十一世紀の国際時代にふさわしい人間として成長することを大いに期待して欲しい。

△社団法人横浜青年会議所特別理事▽